

二〇二四年度・学力考查問題【国語】

(高校第一回)

注意

- 一、試験時間は50分です。
- 二、答えはすべて解答用紙にはつきりと記入しなさい。
- 三、解答用紙のみ試験終了後集めます。
- 四、問題は16ページで□・○・△・◇の四題あります。開始の合図で必ず確認し、そろっていない場合にはすぐに手をあげなさい。
- 五、本文の表現については、作品を尊重し、そのままにしてありますが、設問の都合上、省略した部分、表記を改めた部分があります。また、特に指示のないかぎり、句読点も一字に数えます。

線^あく^おのひらがなを漢字に直しなさい。

- 1 図書館に展示場をへいせつする。^あ
- 2 ひょうしょう状の授与。^い
- 3 この度はかんだいなご配慮を頂きありがとうございます。^③
- 4 こみあげる感情をせいぎよできない。^④
- 5 失敗の責任をてんかする。^⑤

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

この文章は二〇二〇年に書かれたもので、二〇二〇年に起きたトランプ前大統領選挙における民主主義の危機について、「AI（人工知能）技術」や「コロナ禍」の視点から述べたものである。

第四次産業革命とも呼ばれる技術革新とそれに対応する民主主義の構想は、本書の射程を大きく超えています。AIによって人間の仕事が奪われ、無用となった多くの人々はデジタル専制に屈するのではないかと、^あ暗鬱な未来予想が語られるなか、あらためて「人間とは何か」が問い直されるべきでしょう。人間は言葉の論理だけでなく、その文脈や意味について考えることができます。他の人間を、その感情を含めて理解しようとし、意見を交わし、ケアすることができるのも人間固有の能力でしょう。そのような人間固有の能力をいかに見定め、¹発展させられるか。人類の未来は、そこにかかっているのではないでしょうか。

民主主義を基軸に人類の歴史を振り返ってきた本書の視座からすれば、平等化のメカニズムは停滞したり、一時的に逆行したりすることがあっても、最終的には平等化を隔てるさまざまな障壁を破壊して前進していくはずだ、という前提がまず基本になるべきです。もちろん、このような流れを逆転するような大転換が現在起きている可能性を、完全に否定することは難しいでしょう。とはいえ、人間を階層化

し、あるいはカースト化^{※1}する仕組みを一つひとつ打破してきた歴史の方向性をひっくり返し、人々を隔てる構造を新たに打ち立てることは^{※2}けつして容易ではないはずだ。

トクヴィルが指摘したように、そのような平等化は、必ずしも人々の善意によって実現するわけではありません。自らの権力欲から貴族を打倒し、結果的に平等化への道を開いた国王のように、²多くの人は、それと自覚することなしに、平等化に貢献^{こうけん}してしまうのです。火器や戦争もまた、これまでの社会のあり方を突き崩^{くず}すことで、社会の変化を加速させました。

トクヴィルは印刷術や郵便もまた平等化を促進^{そくしん}したといえます。これらの発達は、それまで特定の集団に独占されていた知や情報へのアクセスを、より多くの人々へと開放するチャンネルとなったからです。そうだとすれば、³今日のテクノロジーの発展はどうでしょうか。

より多くの人々が情報やデータにアクセスするのみならず、自ら発信することを可能にするSNSの技術は、文字通り、人々を「デモクラタイズ（民主化）」します。巨大な資本や設備がなくても、人々が製品や作品を容易につくることが可能にする3Dプリンターのような機械は、大組織中心の社会をより「フラット」なものにするでしょう。AIは多くの人間の労働を代替^{だいたい}し、あるいはより効率的なものとし、さらに人間の把握^{はあく}や予測の能力を高めるという意味では、人間の能力を補完し、強化するものといえます。

そのようなテクノロジー進化の果実を独占することで、デジタル専制主義が実現するのか、あるいはAIによる民主主義のバージョンアップが達成されるかは予断を許しません。しかしながら、長期的に

は人々は新たな技術を通じて、政治の透明化を実現し、市民のアイデアをより直接的に政治や行政へと結びつける可能性を拡大していくことに、私たちは賭けるしかないと思われまふ。

いずれにせよ、これまでの産業革命がそうであったように、技術の変化と社会の変化の間には時差があります。第四次産業革命によって、民主主義を含め、さまざまな政治や社会のあり方が変化し、人々の生活や価値観がそれに適応するまで、あと数十年を要するものと思われまふ。二〇世紀前半に自由民主主義が社会主義とファシズムの挑戦を受けたように、二一世紀前半も、自由民主主義とそのチャレンジャーの競争が続くのもかもしれません。

最後に、^{※3}第四の⁴コロナ危機です。これは現在進行中であり、予断を許しません。ただし、危機が続くことで、安易にリーダーシップに期待するだけでは問題が解決しないことに人々は気づき始めています。ウイルス感染の確実な防止策がまだない以上、今後も^{※4}試行錯誤を続けていくしかありません。独裁的な対応は一時的には有効にみえても、自由で多様なアイデアの表出や実験を許さない以上、長期的には^{※5}選択肢を狭める結果になります。より重要なのは、一人ひとりの市民による自覚的な取り組みの強化であり、政府への信頼^{しんらい}を高めることで、有効な取り組みを社会的に共有していくことではないでしょうか。パンデミックを通じた国家権力の拡大、とくに追跡アプリを通じた個人情報^{※6}の把握や、それに基づく個人の生の管理については、今後慎重に監視していく必要があります。大量の個人情報^{※7}を掌握する国家や、グローバルなプラットフォーム企業による情報独占をチェックしていくためには、国境を超えた市民社会の強化が不可欠です。自由と

民主主義にとっての鍵は国家と社会の緊張ある関係です。二一世紀において、社会とはグローバルに連帯した市民社会を指すはずですが。いまは国境の壁が閉ざされ、人々の自由な交流が妨げられ、自国中心的なメンタリティが横行していますが、いづれこれを乗り越える動きが生まれてくるでしょう。そのためには、⁵人と人との新たな距離感に基づいて、人と人をつなぐ技術の磨くべきです。

コロナ危機は、私たちに大切なものは何か、あらためて問い直すきっかけとなりました。何より大切なのは人々の安全でしょう。多くの生命が失われる危険に全力で立ち向かわなければならぬことは明らかです。その一方、危機が長期化するとともに経済活動の停滞による影響も深刻化していきました。日々の生産や流通、消費の活動が大きく損なわれるなか、失業や休業によって生活を脅かされる人も増加していきます。安全を優先すれば経済活動にとっての障害となりますが、安易に経済活動を再開すれば感染の再拡大は免れないでしょう。人々の自由や社会的公正も、安全や経済とは独立した、そしてそれに劣らない重要な価値です。安全を重視するあまり、個人のプライバシーを侵害⁶することには最大限、警戒的⁷であるべきです。同時に、感染のダメージは、社会のなかでより弱い立場の人に大きなものとなります。負担をいかに社会的に共有していくかも重要な課題です。安全、経済自由は同時に実現が難しい、いわばトリレンマ⁸です。いづれかを優先すれば、他のいずれかが必ず損なわれます。この難局を民主主義がいかに乗り越えていけるかが、今後の最大のテーマになるでしょう。

最終的に問われるのは、私たちの信念ではないでしょうか。厳しい

時代においてこそ、人は何を信じるかを問われるのです。

第一に、「X」です。古代ギリシアで成立した「政治」とは、公共の議論を通じて意思決定を行うことへの信念でした。力による強制でもなければ、利益による誘導でもなく、あくまで言葉を通じて説得し、納得した上で決定に従いたい。これこそが、自由な人間にとって何より大切であるとする理念を、現代に生きる私たちもまた共にしています。そのためにも、情報の公開やオープンデータはもろろん、政策決定過程をより透明度の高いものにしていく必要があります。

第二に、「Y」です。私たちは、自分と関わりのないことには、いくら強制されても力を出せません。これはまさに自分のなすべき仕事だ、自分たちにとってきわめて大切な事柄だと思えてはじめて、主体的に考え、自ら行動する動機が生じます。逆に自分に深く関わることに對して無力であり、影響を及ぼすことができないという感覚ほど、人を苛むものはありません。私たちは身の回りのことから、環境問題など人類全体の問題にまで、生き生きした当事者意識をもちたいと願っています。民主主義とは、そのためにあるのです。

第三に、「Z」です。政治においては責任の問題が不可避⁹です。一つひとつの判断が社会や人類の将来に影響を与え、場合によっては多くの人々の暮らしかや生死にかかわるだけに、政治的決定には責任が伴います。といっても、責任を問われるのは、特別なリーダー¹⁰だけではありません。ごく普通の人々が、自らの可能な範囲で公共の任務に携わり、責任を分かち¹¹ことが、民主主義にとって重要です。責任を負担として捉えるのではなく、自分たちにとって大切なものを預かり、担っているという感覚として理解するならば、それはむしろ人

間に生きがいと勇気を与えるのではないのでしょうか。

個人は相互に自由かつ平等であり、それを可能にする政治・経済・社会の秩序を模索し続けるのが人間の存在理由です。民主主義をどこまで信じていることができるのか、それがいま、問われています。

(宇野重規『民主主義とは何か』講談社より)

※1 カースト化：身分によって序列が形成されること。

※2 トクヴィル：フランスの政治思想家・法律家・政治家。

※3 第四の：筆者はこれより前の文章で、民主主義の危機について三つの視点から論じている。

※4 トリレンマ：ここでは、三つの目標を同時に達成することができないという意味。

問一 —— 線1「人類の未来は〜ないでしょうか」とありますが、その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア AIとの関係を断ち切り、人と人との繋がりを重要視すること
ことで、失われてしまった人間固有の能力を復活させることが必要である。

イ AIの技術が発展する中で、人間だけが持っている能力をあらためて考え直して明確にすることが、人類の未来を大きく左右する。

ウ AIの技術と人間の能力をあえて同じものとして共存させて限界を規定しない中で、人間固有の能力を見出していくべきである。

エ AIの技術が進歩していく速度を制限することで、人間だけが持っている能力は、AIに対して常に優位性を保ち続けられるだろう。

問二 —— 線2「多くの人々〜しまうのです」とありますが、その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 人々を隔てる存在を排除しようという意思に基づいて起こした行動ではなくても、それは結果的に平等化へ向かっていく流れを生む、ということ。

イ たとえ権力欲が契機になったとしても、人間には無意識のうちには平等化を目指したいという願望があり、結果的に権力者を排除することになる、ということ。

ウ 人々が平等化の妨げになる権力を打破すると、表面的には平等化が進むものの、社会の深部に存在する階層化が消えることはない、ということ。

エ 歴史の方向性を逆行させてしまう可能性がある」と承知した上で、人々は平等化を妨げる壁を打破するために協力することになる、ということ。

問三 —— 線3 「今日のテクノロジーの発展はどうか」について、後の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 「今日のテクノロジーの発展」によって実現したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア より多くの人々がアクセスできる環境。
- イ 製品や作品を生み出すための巨大な資本。
- ウ 個人が自ら情報を発信することが可能な社会。
- エ 人間の労働をAIに代替させる政治。

(2) 「今日のテクノロジーの発展」について筆者はどのように考えていますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 市民が政治の透明化を目指すようになり、民主主義の発展のために市民が政治に関わる機会を増やしていくことが大切である。
- イ 政治を透明化し、民主主義の質を高めて市民に利益を還元するためには、政治が主導してデジタル技術を管理し、進化させる必要がある。
- ウ 市民の価値観の変革によって技術の変化と社会の変化の時差が縮まると、政治が身近なものとなり、理想的な民主主義の実現が可能となる。

エ 技術の独占によって民主主義を後退させるのではなく、新しい技術によって政治の意思決定のプロセスを明らかにし、市民と政治の距離を近づけるべきである。

問四 —— 線4 「コロナ危機」について、後の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 「コロナ危機」におけるリーダーの対応について筆者はどのように考えていますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 独裁的なリーダーの判断に期待していても、ウィルスの感染を長期的に防ぐことができる有効な策を見いだすことはできない。

イ コロナ危機に立ち向かうためのリーダーの判断は一時的に効果があるかもしれないが、長い目で見ると対応のバリエーションを減少させる。

ウ 安易なリーダーシップを排除しようとして議論を深めるあまり、対応の選択肢が増えすぎて、最善策を選ぶことができなくなる。

エ リーダーは社会的弱者の負担を軽減する必要があるが、同時にリーダーシップに基づいて、さらに個人情報の把握に努めなければならぬ。

(2) 「コロナ危機」における民主主義の問題を乗り越えるために、筆者は何が大切であると考えていますか。文中から十二字で探し、抜き出しなさい。

問五 —— 線5 「人と人との新たな距離感」とありますが、その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 感染の拡大を防ぎながら経済を保証するために、自分が所属する国家の中で結びつきを強化しようになる。

イ 個人情報把握されることと引き替えに、経済活動を推進するための、グローバルな繋がりを構築しようになる。

ウ 個人情報把握する国家や企業を監視するため、SNSの技術などによって国境を越えて連帯するようになる。

エ 個人情報把握を国家や企業によって把握されないために、他者との交流の機会を極力減らすようになる。

問六 —— 線6「最終的に問われるのは（ ）問われるのです」とあります。線6「最終的に問われるのは（ ）問われるのです」とあります。線6「最終的に問われるのは（ ）問われるのです」とあります。

X Z にあてはまるものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

X ア 匿名性の守秘

イ 公開による透明性

ウ 言葉による説得

エ 情報の普遍性

Y ア 通信技術を用いた社会参画

イ 時代を超えた連帯意識

ウ 参加を通じての当事者意識

エ 主体化の強制

Z ア リーダーへの信頼

イ 平等化に伴う負担

ウ 民主化に向かう意思

問七 —— 線7「民主主義を（ ）できるのか」とありますが、次のア～エは「民主主義」についての生徒たちの発言です。本文の内容を踏まえたものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア～エは「民主主義」についての生徒たちの発言です。本文の内容を踏まえたものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 生徒A 第四次産業革命が進み新しい技術が生まれると同時に、社会は大きく変化するものだから、一時は専制主義に逆行しても、最終的には民主主義の発展につながると信じていることが大切だと思う。

イ 生徒B コロナ危機では政府が主導して対応を進めてくれたけど、これには個人情報の独占や個人の意見の反映などの点において民主主義を危険にさらしてしまうところによって不安を感じる。

ウ 生徒C 時代の変化とともに民主主義は色々なものと対立してきた。これからは感染症や独裁的指導者の台頭、さらには情報の平等化を促進するSNSの技術との競争が続くのかもしれない。

エ 生徒D コロナ危機は僕らに安全や生命の重要性を教えてくれた。でも、失業や休業で生活が脅かされるなら、安全を犠牲にしてもプライバシーや経済活動を優先しなければならぬ。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

夜のキャンパスは、湿気しげったクラッカーの上みただ。今日を満月にしてくれた神様に小夜子こやこは心の中で「ありがとう」と言った。鈍感すぎなければ、大澤くんは小夜子が自分を好きだと気づいているだろう。

ひよろりと背の高いこの肩の隣に並んで歩くのは、柵くさくの木の下で待ち合わせた初夏以来だから、三カ月ぶりか。黒いコンバース※1が自分のために動いていた。

「なんか飲む？」

大澤くんが自販機の前で立ち止まる。

「あの、でも私、部屋に財布置いてきちゃった」

小夜子は小声でおまけに早口で言った。大澤くんは黙ってズボンのポケットに手を入れて開くと、掌てのひらには何枚かの小銭が載のっている。左からも、お尻のポケットからも出して、それらの中から何枚かをリズムよく自販機に入れる。

「どうぞ」

「すごいね、マジシャンみたい」

小夜子は、緊張してもう胸のあたりがひどく苦しくって、ジュースの種類なんてちっとも頭に入らなかった。

「お、大澤くん先にどうぞ」

大澤くんは、ジャワティーを押しした。多分選んでない。大講義室で見かけたとき、大体いつもそれを飲んでる。他のは目に入っていないのだと思う。子犬が階段を駆け下りるみたいにおつりが出て、それをかき集め取り出す白い細い寂しじましそうな腕、その先の理想的な指先、整った短い爪。そしてまた小銭を滑り込ませる。

「どうぞ」

優しく冷たい声。小夜子も今度は迷わずにジャワティーを押しした。缶の落ちる音が夜の静寂しじまにこだまして、無人島みたいだね、と言いたかったけど、

「ありがとう。後でお金返すね」

と、とてもつまらない言葉しか出なかった。

今日は、いつものモスキート音が聞こえない。鳴らない自販機もあるのだろうか、それとも聞こえなくなってしまったのだろうか。自動販売機は、わざと若者にしか聞こえない、蚊の飛ぶときの嫌な高音が鳴るように作られていると先輩が言っていた。夜に青少年がたむろしないようにだそう。その音は、年とともに聞こえなくなるというから、小夜子は気がじゃなかった。小学校の頃から苦手だった学校生活にやっと少しだけ馴染めてきたのに、まだ大人にはなりたくなかった。

二人は、ジャワティーを飲みながら歩いた。毎日行き来している道が夜になると表情を変えて、知らない場所のようだ。どこに行くとか言い合わないで、言葉を探すことももうやめにして、並木道を呼吸するように歩く。

さっきまでいたクラブ棟の方角からは、時折どっと笑い声が聞こえてきて、それが酷く幼稚なものに思えた。

「何が楽しいんだろうね？」

ふいに大澤くんが喋ったから、脳みそがキャッチしそびれて「え？」

と聞き返してしまった。

「飲み会。ほんと馬鹿らしいよね、学生のああいうの」

「あ、うん。苦手かな、私も」

小夜子も慌てて答える。

二人は、天文学サークルで出会った。小夜子は宇宙ものの映画やプラネタリウムが好きで入部してみたが、本気で宇宙を語るのの一部のマニアな先輩だけで、多くの人は月ではなく缶チューハイと漫画ばかり見ていた。

入学してしばらくしても小夜子は大学にもサークルにも馴染めずに、やっぱり気づいたら一人であった。部会に行くのもやめてしまったある日、大講義室での授業終わりに声をかけてくれたのが大澤くんだった。一緒に部会に行こうと言ってくれて、それから毎週、部会の日はクラブ棟の裏の木の木の下で待っていてくれた。三階にある部室まで並んで数分歩くだけなのに、緊張して殆ど何も話せなかった。大澤くんは部内でもみんなの人気ののだし、普通に輪の中に入っただけなのにぎやかにもできるのに、なぜ自分にかまってくれるのか分からなかった。

やがてメールアドレスを交換して、宇宙ものの映画について朝までメールする日もあった。メールだと饒舌^{じょうぜつ}になってしまう自分がとても恥ずかしかった。何度も何度も、好きだという気持ちを打っては消して、打っては消して、誰かが間違っただけで送信ボタンを押してくれたらいいのと思ったけど、そんな日はついに来なかった。

梅雨が終わる頃、「小夜子さん心配だから」と言って、メールではなくひと月に一回、深夜に電話が来るようになった。そのために、月末の夜は早めにお風呂に入って充電器に携帯をさして、紅茶を飲みながら待った。

いつも緊張と嬉しさで吐きそうになった。すぐ出るのも待っていたみたいで恥ずかしいから、¹コール音は三回半にしてみた。朝方まで喋った。授業のことや宇宙映画やブラックホールのことも。これが恋ではなく友情だというなら、一生このままでもいいかと思ってしまうくらい愉快だった。

部会や講義室で、みんなの中にいる彼をちらちら追いかけてしまふ先輩とふざけ合って無邪気にプロレスの技をかけあったりしているのに、目を離すと、白けた顔をして空を見ながら一人煙草を吸っているような人だった。小夜子が馴染めないのとは違う、意志のある孤独だった。

大澤くんは東京の大学に行っていたけれど、つまらなくて地元に戻ってきて受験し直したと噂で聞いた。小夜子と一緒にいるとき、無口で優しくいつもとは別の人のようだった。自分にだけ見せてくれる姿なのだ嬉しくなる反面、一人にするのが危ないのは自分ではなく、むしろ大澤くんの方ではないのかと思うようになっていた。

²一見強い光で輝いているのに、放っておくと消えてしまふような彗星のような人だった。

夏になり、ようやく小夜子にも女友達ができはじめた。特に同じ天文学部で一つ年上の結菜^{ゆいな}と仲良くなった。結菜は底抜けに明るく、部員みんなに気配りができる姉御肌だった。はっきりと物を言うけれど

嫌味がないので誰からも愛され、次期部長候補だとも聞く。飲みだしたら天体について熱く語りだす根っからの天文学オタクで、小夜子はそういう偏ったところにも惹かれた。勇気を出して結菜に大澤くんの話をしてみたら、

「へー。小夜子も恋なんてするようになったかー」

と、目を細めてまるで母親のような顔をして、それから、

「まかせときな。彼女いないか偵察しといてあげるから！」

と言ってくれたけれど、結菜の性格上それはとても危険な気がしたので、やんわりと断っておいた。結菜がいつも集まりに引き込んでくれるようになったお陰で、小夜子はみんなと過ごす時間が増え、次第に部にとけこみ明るくなっていった。

気がつくと、潮が引いていくように大澤くんは小夜子の前から姿を消した。柵の下で待っていてくれることもなくなったし、メールや電話も途絶えた。

大澤くんが、時々しかサークルに顔を出さない大学院生と付き合い合っていると同級生に聞いたのは、それからしばらくしてのことだった。それも入学してすぐに付き合い出したという。全然気づかなかった。

³ ひどいショックを受けたはずなのに、小夜子はどこかほっとしていた。部会にその人が来たとき、さり気なく観察する。ちょうど学園祭のプラネタリウムライブの係を決めていたが、人が嫌がる仕事も引き受けしてしまうような出来すぎた人で、笑うと両方のほったにエクボができた。シヨートカットの綺麗な首に小夜子なら絶対に選ばないような黒い糸でできた地味なネックレスをしていて、とても太刀打ちできなうになかった。

街灯の下、いまだ蟬が一匹だけ鳴いている。ジャワティーを持ったまま二人は湿気ったキャンバスを歩き続けた。なぜまた誘ってくれたのかは分からなかったが、きっとこれは彼の気まぐれだ。それでもいやと思えるのは、夏が終わろうとしている今日だからなのだろう。相変わらずクラブ棟での飲み会は続いているらしく、騒ぎ声は定期的に聞こえた。

「大学なんて、小さな世界だってあいつら何で気づかないんだろう。すぐ腐った社会に出なきゃなんないのに、あんなはしゃいでさ」

その声はちよつとくぐもつて不安気で、きつと自分に言い聞かせているのだと思つた。

⁴ 「そうだね」

いつも頷いてあげることだけが、彼を救う手段だった。小夜子は悲しいふりをする。女友達と笑い合っているときだって、頭の片隅では、ばかばかしいなと思うように努力してきた。同じ種類の人間だと大澤くんと思つていてほしいから。誰よりも分かっていると思ひ合いたいから。

「ね、小夜子さんさ、俺、秘密の場所があるんだ。行ってみる？」

「秘密の場所？」

「うん、まだ誰にも教えてない。小夜子さんに教えてあげたいなって、ずっと思ってたんだよな」

こういうことを純粹に言ってしまう人だから、手に負えなかった。それなのに、その言葉を真に受けて、小夜子の体は沸騰しそうなほど熱くなり、それは顔にまで到達して、耳まで赤くなっているのが分か

る。夜が暗くてよかったと心から思った。

あまり小夜子が行くことのない理工棟の裏口にたどり着くと、大澤くんはドアの横についた小さな正方形の箱を慣れた手つきで開ける。

「オ、シ、ニ、ク、イ。だから覚えとくといいよ」

0、4、2、9、1と暗証番号を押すとガチャッと音がしてロックが解除される。

「ね、勝手に入って大丈夫なの？」

「大丈夫でしょ。深夜まで研究してる人もいるしね」

まだ入学して半年しか経ってないのに、こういうこと誰に教えてもらうんだろう。非常灯の明かりを頼りに、大澤くんの後について階段を上っていく。彼女とはいつものどんな話をしているのだろうか。ここじゃないなら、どんな場所に行くのだろう。クーラーの切れた建物の中はサウナみたいで、汗がTシャツの中で肌をつたって流れた。

三階に到着し長い廊下を進んでいく。スイミングスクールのカルキの匂いがする。両側に並ぶ研究室のドアの隙間からときどき光がこぼれて、プールの中に差し込む木漏れ日のようだ。二人が歩く足音だけが廊下に響いた。突き当りまで行くと、大澤くんは大きなドアの取っ手をゆっくりと回した。

「ここだけ鍵が壊れてんだよね」

鈍い音がして、ドアは開いた。

ドアの向こうから白い月光が差した。二人の間を夏の風が吹きぬける。目の前には二十畳ほどのコンクリートのバルコニーが広がっていた。出入り口の丁度上の屋根のひさしの部分で、柵も壁もなくて、うっかり踏み外したら下まで落ちてしまうような所だった。まるで真っ暗

なプールに浮かぶビート板みたいだと思った。

「なんか、いいだろ？」

「うん。なんか、いいね」

こんなところに、いつも一人で来ている大澤くんが心配だった。

「小夜子さんもここに案内したいなって思ってたんだよ、前から」

大澤くんの顔が月明かりの下くつきりと浮かび上がって、月を見るふりをしてずっとその横顔を眺めた。夜のプールに浮かべたビート板が二人だけに乗せて、このまま風まかせに流れていけばいいのに、とかそんな気持ち悪いことを考えてしまう自分がひどく幼くて痛々しかった。

柵のないむき出しのバルコニーを大澤くんは躊躇なくスタスタと歩いていく。

「ねえ、危ないよ、あんまり端っこに行かないほうがいいよ」

後ろ姿が闇に吸い込まれていきそうに怖かった。

大澤くんは、端っこまで行くとすとんと座り、足をぶらぶらさせて空を見上げた。

「大丈夫だよ。小夜子さんもおいでよ」

小夜子も恐る恐る歩いていき、隣にゆっくり腰を下ろした。そしてもうぬるくなったジャワティーを飲む。丁度、街路樹が街灯の全てと重なって人工的な光はなくなり、月明かりだけになった。ざーっと風が木々を揺らす。もはやここは別の星なのかもしれない。ときどき隣の星からみんなの笑い声が、衛星をつたって流れるラジオ放送のように聞こえた。

「気持ちいいね」

小夜子は心からそう言った。

この人とは結ばれないんだな、と何故かはっきりとわかった。いや、もつとずつと深いところで結ばれているのだと思いたかった。

こんな日もいつか消えてしまふのならば、今日の月と横顔をずつとずつと覚えていよう。小夜子は息を潜めてそつと眩いものたちを見つめていた。

6 大澤くんはコンクリートに寝転がって、
「まぶしいな」

と言った。小夜子も隣に寝転がった。

7 「ほんとだ、まぶしいね」

8 耳元で蚊の飛ぶ音がした。

(高橋久美子『ぐるり』所収「自販機のモスキート、宇宙のビート板」
筑摩書房より)

※1 コンバース：スニーカーのこと。

問一 —— 線1「コール音は三回半にしてみた」とありますが、この時の「小夜子」の様子の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 大澤くんとは頻繁に電話するほどの関係ではないので、電話に出ることが恥ずかしくなり、何度かコール音を聞きながら気持ち悪さを落着かせている。

イ 大澤くんと早く話がしたかったのに、緊張のせいで電話に出ることをためらい、少ないコール数で電話を取ることができないでいる。

ウ 出ようと思えばもつと早く電話に出られるが、電話を待っていることを大澤くんに悟られないように、わざと少し時間を空けて電話に出ている。

エ 大澤くんと電話ができるのは嬉しいものの、大澤くんがおもしろいと思える話ができるかどうか不安になり、電話に出るまでに時間がかかっている。

問二 —— 線2「一見強い光で／＼彗星のような人」とありますが、ここから「小夜子」は「大澤くん」をどのような人物として見ているとわかりますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 友人と楽しんでいるときには安定しているが、孤独な状況に陥ってしまったときに自分のことをどうすれば保つことができるかがわかっていない人物。

イ 大学にいるときは常に小夜子と行動を共にしていて、小夜子には優しい笑顔を見せる一方で、今にも知らない場所に行ってしまうのではないかと思わせる人物。

ウ 友人に囲まれているときには優しく振舞っているが、小夜子と一緒にいるときには小夜子の気持ちを尊重しようとしていない、自分本位な側面のある人物。

エ 普段は多くの友人から慕われて、大学の中でも明るく振舞っているが、自分からあえて孤独な状況に身を置こうとする人物。

問四

——線4「いつも領いて〜手段だった」とありますが、その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 大澤くんが抱いている、他の人と仲間になりたいと思いつつも蔑きずんでしまうという葛藤を、小夜子は大澤くんに寄り添うことで解消しようとしている。

イ 大澤くんを蔑む周囲の人々に対して小夜子が否定的な態度を取ることで、大澤くんに自分のことを味方と思ってもらい、精神的な苦痛を和らげようとしている。

ウ 周囲を蔑む態度をとることで自己を保とうとする大澤くんを支えようとするものの、小夜子は大澤くんの言動に共感を示すことしかできないでいる。

エ 小夜子は周囲を蔑む大澤くんをたしなめようと思っているものの、大澤くんが傷つくことを怖れて、大澤くんに反論できないでいる。

問三

——線3「ひどいショックを〜ほっとしていた」とありますが、この時の「小夜子」の心情の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 大澤くんが自分とは違う女性と交際していると聞いてひどく落胆したが、孤独な状況にいる大澤くんを支えとなる存在がいることに安心もしている。

イ 大澤くんが自分に対して隠し事をしていることに怒りを覚える一方で、もう大澤くんと同じ時間を過ごさなくていいと安心してている。

ウ 大澤くんが以前から違う女性と付き合っていたという事実に驚きを隠せないでいるが、これからは大澤くんのことを気にせずにサークル活動に打ち込めると安堵している。

エ 大澤くんが自分ではない女性と付き合っていると聞いて落ち込みながらも、大澤くんが自分と似たような特徴を持つ女性を選んでいくことに安堵している。

問五 —— 線5 「そんな気持ち悪いことを考えてしまう自分」とあ

りますが、この時の「小夜子」の様子の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 柵のないバルコニーの端っこから落下するかもしれないという危うさを感じたが、落ちそうになったときは大澤くんが助けてくれるだろうと期待している。

イ 周囲の騒がしい世界から切り離されたバルコニーに、月明りの下、大澤くんと二人きりでいられることを無邪気に喜んでいる。

ウ 大澤くんが月明りに照らされたバルコニーの美しさに魅了されつつも、そばにいる自分のことを忘れないでほしいと切望している。

エ 大澤くんと自分がいるバルコニーが周りの世界と徐々に混ざり合うような一体感を覚えつつ、大澤くんもその感覚に酔っているだろうと確信している。

問六 —— 線6 「まぶしいな」・7 「まぶしいね」とありますが、

この場面での二人の違いを簡潔に説明しなさい。

問七 —— 線8 「耳元で蚊の飛ぶ音がした」とありますが、本文全

体の内容を踏まえながら、この時の「小夜子」の様子の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 大澤くんと共に時間を過ごす中で、小夜子にとっては大澤くんの存在がどんどん大きいものになっていく一方で、自分は大澤くんにとって蚊のようにちっぴけな存在でしかないのだ、ということもわかっている。

イ 大澤くんととの距離はいつまで経っても縮まることはないということをはっきりと実感しつつも、普通の生活では見ることのできないような光景を見せてくれる大澤くんの存在の大きさを大切にしようとしている。

ウ 大澤くんと共に時間を過ごすことで大澤くんと小夜子との間に構築された特別な関係を実感しながら、いつまでも大澤くんに頼り切りになることをやめて、大人としての自己を形作っていかうと決意している。

エ 憧れている大澤くんと共に時間を過ごす中で気がついた、大澤くんと小夜子の間に存在する隔たりを思いながら、過ぎ去ってしまったあとは失われてしまう、まだ大人になりきらない時間を噛みしめている。

四

問題文〈甲〉・〈乙〉を読んで、後の問いに答えなさい。
 なお、問題文〈乙〉については設問の都合上、送り仮名
 や返り点を省略した部分があります。

〔甲〕

※1 あだし野の露きゆる時なく、鳥部山とりべの烟立ちさらでのみ住みはつる
 ならひならば、いかにものあはれもなからん。世はさだめなきこそ
 いみじけれ。

命あるものを見るに、人ばかり久しきはなし。かげろふの夕を待ち、
 夏の蟬せみの春秋はるあきを知らぬもあるぞかし。つくづくと一年を暮らすほどだ
 にも、こよなうのどけしや。あかず惜しと思はば、千年を過すとも一
 夜の夢の心地こそせめ。住み果てぬ世に、みにくき姿を待ちえて何か
 はせん。命長ければ辱多し。長くとも四十よそぢに足らぬほどにて死なんこ
 そ、めやすかるべけれ。そのほど過ぎぬれば、かたちを恥づる心もな
 く、人に出でまじらはん事を思ひ、夕ゆふの陽ひに子孫を愛して、栄さかゆく末
 を見んまでの命をあらまし、ひたすら世をむさぼる心のみ深く、もの
 のあはれも知らずなりゆくなん、あさましき。

(『徒然草』第七段より)

〔乙〕

古代中国の王である、「堯ぎょう」が出かけた際、その地の役人が敬
 意を表してさまざまな申し出をする。

堯ギョウ 観カミ 乎コ 華カ 封フ 人 曰イハク、「嘻アハ、聖人。請ナリ 祝フ 聖

人 使シ 聖人 寿ス。」堯ハク 曰イハク、「辞シ。」「使シ 聖人 富フ。」堯ハク 曰イハク、「

辞シ。」「使シ 聖人 多タ 男子。」曰イハク、「辞シ。」封人 曰イハク、「寿 富

多タ 男子、人之所 欲スル 也。女 独リ 不レ 欲セ 何 邪ヤト。」

堯ハク 曰イハク、「多タ 男子 則チ 多ク 懼レ 富 則チ 多ク 事、寿 則チ 多ク

辱ハチ。是 三 者 非ザル 所 以 養フ 德 也。故 辞シ。」

(『莊子』外篇 天地第十二より)

※1 あだし野のく立ちさらで…「あだし野」「鳥部山」はともに

京都郊外の地名。墓地や火葬場が置かれた。

※2 観：領国を見てまわる。

※3 華：地名。

※4 封人：国境を守る者。

問一 —— 線1 「世はさだめなきこそいみじけれ」とありますが、その解釈として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア この世は決まりごとがないからこそ楽しいのだ。

イ この世は無常であるからこそすばらしいのだ。

ウ この世は決めつけないことこそが大事なのだ。

エ この世は不定であるからこそ悲しいのだ。

問二 —— 線2 「かげろふの（ ）知らぬもあるぞかし」とありますが、その解釈として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア かげろふが日中に、そして蟬が夏以外にどのようになっているのか知らない者もいるようだ。

イ かげろふが夕方を待ち、蟬が春秋を知らないというようなことはあるまい。

ウ かげろふが夕方を待ち、蟬が春秋を知らないのはなぜなのだろうか。

エ かげろふは日中に命を終え、蟬は夏しか生きられないのだよ。

問三 —— 線3 「祝 聖人使 聖人寿」とありますが、返り点の付け方と解釈の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 祝_二聖人使_一聖人_一寿

あなた様が聖人となられたことを祝しつつ、あやかりたいと思います。

イ 祝_二聖人_一使_二聖人_一寿_一

聖人であるあなた様のために祈り、長生きしていただこうと思います。

ウ 祝_二聖人_一使_二聖人_一寿_一

あなた様が聖人であることに感謝しつつ、末永く使ってください。ただくことを望んでおります。

エ 祝_二聖人_一使_二聖人_一寿_一

聖人であるあなた様はもちろんのこと、あなた様の使者も優れていることに感嘆しております。

問四 —— 線4 「辞」とありますが、これと同じ意味で用いられているものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 固辞

イ 賛辞

ウ 言辞

エ 辞書

問五 —— 線5 「寿則多^レ辱」とありますが、問題文(甲)にお

いても同様の記述が見られ、その理由について述べられています。
その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えな
さい。

ア 生に執着するあまり情趣も感じられなくなるから。

イ 人との交際を疎ましく思うようになるから。

ウ 子の行く末を見守ることをやめるから。

エ 容貌の衰えが隠しきれなくなるから。

問六 —— 線6 「是三者」について。

(1) 「是三者」とは何か、文中から探し、過不足なく抜き出しなさい。

(2) 「堯」は「是三者」についてどのように捉えていますか。最も
も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 際限なく欲しくなってしまうもの

イ 立派な王となるための妨げになるもの

ウ すでに手に入れてしまっているもの

エ 王の立場としては関わりのないもの

【国語】

解答用紙 (高校第一回)

受験番号

.....

氏名

.....

得点

.....

一

あ

へいせつ

い

ひょうしょう

う

かんだい

え

せいぎよ

お

てんか

二

問一

.....

問二

.....

問三 (1)

.....

(2)

.....

問四 (1)

.....

問四 (2)

.....

問五

.....

問六 X

.....

Y

.....

Z

.....

問七

.....

三

問一

.....

問二

.....

問三

.....

問四

.....

問五

.....

問六

.....

問七

.....

四

問一

.....

問二

.....

問三

.....

問四

.....

問五

.....

問六 (1)

.....

・

.....

・

.....

(2)

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....